

5

[大阪大]

次の問いに答えよ。

- (1)  $c$  を正の定数とする。正の実数  $x, y$  が  $x + y = c$  を満たすとき、 $\left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right)$  の最小値を  $c$  を用いて表せ。
- (2) 正の実数  $x, y, z$  が  $x + y + z = 1$  を満たすとき、 $\left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right)\left(1 - \frac{4}{3z}\right)$  の最大値を求めよ。

6

[名古屋大]

2 つの円  $C:(x-1)^2 + y^2 = 1$  と  $D:(x+2)^2 + y^2 = 7^2$  を考える。また原点を  $O(0, 0)$  とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 円  $C$  上に、 $y$  座標が正であるような点  $P$  をとり、 $x$  軸の正の部分と線分  $OP$  のなす角を  $\theta$  とする。このとき、点  $P$  の座標と線分  $OP$  の長さを  $\theta$  を用いて表せ。
- (2) (1) でとった点  $P$  を固定したまま、点  $Q$  が円  $D$  上を動くとき、 $\triangle OPQ$  の面積が最大になるときの  $Q$  の座標を  $\theta$  を用いて表せ。
- (3) 点  $P$  が円  $C$  上を動き、点  $Q$  が円  $D$  上を動くとき、 $\triangle OPQ$  の面積の最大値を求めよ。

ただし(2), (3)においては、3点  $O, P, Q$  が同一直線上にあるときは、 $\triangle OPQ$  の面積は  $0$  であるとする。

7

[金沢大]

$a, b$  を実数とする。  $f(x) = 2\sqrt{1+x^2} - ax^2$  とし、  $x$  についての方程式  $f(x) = b$  を考える。 次の問いに答えよ。

- (1)  $a > 0$  のとき、関数  $f(x)$  の最大値を求めよ。
- (2) 方程式  $f(x) = b$  の異なる実数解の個数が最も多くなるときの点  $(a, b)$  の範囲を図示せよ。

8

[東京大]

$e$  を自然対数の底, すなわち  $e = \lim_{t \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{t}\right)^t$  とする。すべての正の実数  $x$  に対し, 次の不等式が成り立つことを示せ。

$$\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x < e < \left(1 + \frac{1}{x}\right)^{x+\frac{1}{2}}$$

9

[千葉大]

以下の問いに答えよ。

- (1)  $x > 0$ において, 不等式  $\log x < x$  を示せ。
- (2)  $1 < a < b$ のとき, 不等式  $\frac{1}{\log a} - \frac{1}{\log b} < \frac{b-a}{a(\log a)^2}$  を示せ。
- (3)  $x \geq e$ において, 不等式  $\int_e^x \frac{dt}{t \log(t+1)} \geq \log(\log x) + \frac{1}{2(\log x)^2} - \frac{1}{2}$  を示せ。ただし,  $e$  は自然対数の底である。

5

[大阪大]

- (1)  $c$  は正の定数,  $x+y=c$  ( $x>0, y>0$ ) のとき,  $P = \left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right)$  とおくと,

$$P = 1 + \frac{1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{1}{xy} = 1 + \frac{x+y}{xy} + \frac{1}{xy} = 1 + \frac{c+1}{xy}$$

ここで, 相加平均と相乗平均の関係より,  $c = x+y \geq 2\sqrt{xy}$  となり,

$$\frac{1}{xy} \geq \frac{4}{c^2} \quad (\text{等号は } x=y=\frac{c}{2} \text{ のとき成立})$$

よって,  $P \geq 1 + \frac{4(c+1)}{c^2} = \frac{(c+2)^2}{c^2} = \left(\frac{c+2}{c}\right)^2$  となり,  $P$  は  $x=y=\frac{c}{2}$  のとき最小値  $\left(\frac{c+2}{c}\right)^2$  をとる。

- (2)  $x+y+z=1$  ( $x>0, y>0, z>0$ ) のとき,  $Q = \left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right)\left(1 - \frac{4}{3z}\right)$  とおく。

ここで,  $x+y=1-z$  から  $0 < z < 1$  となり,  $1 - \frac{4}{3z} = \frac{3z-4}{3z} < 0$

すると, (1)の結果から,

$$Q = P\left(1 - \frac{4}{3z}\right) \leq \left(\frac{1-z+2}{1-z}\right)^2 \left(1 - \frac{4}{3z}\right) = \left(\frac{3-z}{1-z}\right)^2 \cdot \frac{3z-4}{3z}$$

なお, 等号は  $x=y=\frac{1-z}{2}$  のとき成立する。

ここで,  $f(z) = \left(\frac{3-z}{1-z}\right)^2 \cdot \frac{3z-4}{3z} = \left(\frac{z-3}{z-1}\right)^2 \cdot \frac{3z-4}{3z}$  とおくと,

$$\begin{aligned} f'(z) &= 2 \cdot \frac{z-3}{z-1} \cdot \frac{2}{(z-1)^2} \cdot \frac{3z-4}{3z} + \left(\frac{z-3}{z-1}\right)^2 \cdot \frac{4}{3z^2} \\ &= \frac{4(z-3)}{3z(z-1)^2} \left(\frac{3z-4}{z-1} + \frac{z-3}{z}\right) = \frac{4(z-3)(4z^2-8z+3)}{3z^2(z-1)^3} \\ &= \frac{4(z-3)(2z-1)(2z-3)}{3z^2(z-1)^3} \end{aligned}$$

これより,  $f(z)$  の増減は右表のようになり,  $z = \frac{1}{2}$  のとき最大値  $-\frac{125}{3}$  をとる。

$z$	0	...	$\frac{1}{2}$	...	1
$f'(z)$		+	0	-	
$f(z)$		↗	$-\frac{125}{3}$	↘	

したがって,  $Q$  は  $x=y=\frac{1}{4}, z=\frac{1}{2}$  のとき最大値  $-\frac{125}{3}$  をとる。

### [解説]

条件付きの最大・最小問題です。(2)では, (1)の結果の利用するため, いったん  $z$  を固定して考えています。なお,  $f'(z)$  を商の微分法を利用してまとめていくと, 相当な計算量になります。

6

[名古屋大]

- (1)  $A(2, 0)$  とおくと、線分  $OA$  が円  $C$  の直径となるので、 $\angle APO = \frac{\pi}{2}$  となる。

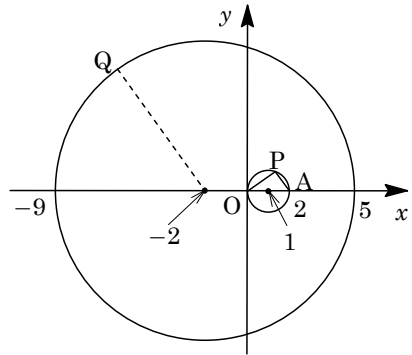
条件から、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  として  $\angle AOP = \theta$  より、

$$OP = OA \cos \theta = 2 \cos \theta$$

また、 $P(x, y)$  とおくと、

$$x = OP \cos \theta, \quad y = OP \sin \theta$$

よって、 $P(2\cos^2\theta, 2\sin\theta\cos\theta)$  である。



- (2) 中心  $(-2, 0)$  で半径  $7$  の円  $D$  上の点  $Q$  を、 $Q(-2+7\cos\varphi, 7\sin\varphi)$  ( $0 \leq \varphi < 2\pi$ ) とおくと、 $\triangle OPQ$  の面積  $S$  は、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} |2\cos^2\theta \cdot 7\sin\varphi - 2\sin\theta\cos\theta(-2+7\cos\varphi)| \\ &= |7\cos^2\theta\sin\varphi - 7\sin\theta\cos\theta\cos\varphi + 2\sin\theta\cos\theta| \\ &= \cos\theta |7(\cos\theta\sin\varphi - \sin\theta\cos\varphi) + 2\sin\theta| = \cos\theta |7\sin(\varphi - \theta) + 2\sin\theta| \end{aligned}$$

ここで、 $\theta$  を  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  で固定すると、 $\sin\theta > 0$  で  $-\theta \leq \varphi - \theta < 2\pi - \theta$  より、 $\varphi - \theta = \frac{\pi}{2}$  ( $\varphi = \theta + \frac{\pi}{2}$ ) のとき  $S$  は最大になる。

このとき、 $\cos\varphi = -\sin\theta$ 、 $\sin\varphi = \cos\theta$  より、 $Q(-2-7\sin\theta, 7\cos\theta)$  である。

- (3) (2)より、 $S$  の最大値は、 $S = \cos\theta |7 + 2\sin\theta| = \cos\theta(7 + 2\sin\theta)$

そこで、この  $\varphi$  と  $\theta$  の関係を保ったまま、 $x$  軸に関する対称性から点  $P$  の  $y$  座標が正、すなわち  $\theta$  を  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  で動かすと、

$$\begin{aligned} S' &= -\sin\theta(7 + 2\sin\theta) + \cos\theta \cdot 2\cos\theta = -7\sin\theta - 2\sin^2\theta + 2(1 - \sin^2\theta) \\ &= -4\sin^2\theta - 7\sin\theta + 2 \\ &= -(4\sin\theta - 1)(\sin\theta + 2) \end{aligned}$$

そこで、 $\sin\alpha = \frac{1}{4}$  ( $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと、 $S$  は

$\theta$	0	...	$\alpha$	...	$\frac{\pi}{2}$
$S'$		+	0	-	
$S$		↗		↘	

増減が右表のようになり、 $\theta = \alpha$  で最大となる。

そして、点  $P$  が  $O, A$  に一致する場合も考え合わせて、 $S$  の最大値は、

$$\cos\alpha(7 + 2\sin\alpha) = \sqrt{1 - \frac{1}{16}} \left(7 + 2 \cdot \frac{1}{4}\right) = \frac{15}{8} \sqrt{15}$$

[解説]

2変数関数の最大・最小問題ですが、まず1文字を固定して考えるという丁寧な誘導がついています。なお、(2)は図形的な処理も可能です。

7

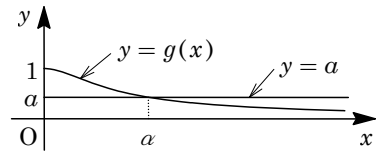
[金沢大]

(1)  $a > 0$  のとき、 $f(x) = 2\sqrt{1+x^2} - ax^2$  に対して、 $f(-x) = f(x)$  から  $y = f(x)$  のグラフは  $y$  軸対称となる。そこで、以下、 $x \geq 0$  で考える。

$$f'(x) = 2 \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{2x}{\sqrt{1+x^2}} - 2ax = 2x \left( \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} - a \right)$$

ここで、 $g(x) = \frac{1}{\sqrt{1+x^2}}$  とおくと、 $x \geq 0$  において  $g(x)$  は単調に減少し、

$$1 = g(0) \geq g(x) > \lim_{x \rightarrow \infty} g(x) = 0$$



(i)  $0 < a < 1$  のとき

$g(a) = a$  となる  $a$  が  $a > 0$  でただ 1 つ存在し、このとき  $f(x)$  の増減は右表のようになる。

$x$	0	...	$a$	...
$f'(x)$	0	+	0	-
$f(x)$	2	↗		↘

すると、 $\frac{1}{\sqrt{1+a^2}} = a$  から  $1+a^2 = \frac{1}{a^2}$  となり、

$f(x)$  の最大値は、

$$f(a) = 2\sqrt{1+a^2} - aa^2 = \frac{2}{a} - a \left( \frac{1}{a^2} - 1 \right) = a + \frac{1}{a}$$

(ii)  $a \geq 1$  のとき

$x \geq 0$  において  $f'(x) \leq 0$  となり、 $f(x)$  の最大値は  $f(0) = 2$  である。

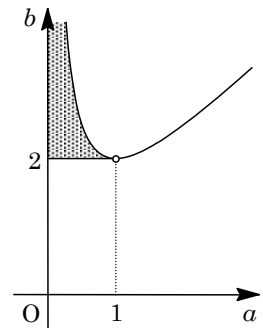
(2)  $a > 0$  のとき、 $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = -\infty$  となり、ある  $b$  における方程式  $f(x) = b$  の異なる実数解の個数の最大数は、 $0 < a < 1$  のとき 4 個、 $a \geq 1$  のとき 2 個である。

$a \leq 0$  のとき、 $x \geq 0$  において  $f(x)$  は単調に増加するので、ある  $b$  における方程式  $f(x) = b$  の異なる実数解の個数の最大数は 2 個である。

したがって、方程式  $f(x) = b$  の異なる実数解の個数の最大数は 4 個であり、このとき、

$$0 < a < 1, \quad 2 < b < a + \frac{1}{a}$$

そして、相加平均と相乗平均の関係から  $a + \frac{1}{a} \geq 2$  に注意して点  $(a, b)$  の範囲を図示すると、右図の網点部になる。ただし、境界は領域に含まない。



[解説]

場合分けをして増減を考えるという微分の応用の典型題です。なお、(3)の領域の境界線は有名ですので、増減表などのプロセスは省略しています。



8

[東京大]

まず、 $f(x) = \log\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x - 1 = x\{\log(x+1) - \log x\} - 1$  とおくと、

$$f'(x) = \log(x+1) - \log x + x\left(\frac{1}{x+1} - \frac{1}{x}\right) = \log(x+1) - \log x - \frac{1}{x+1}$$

$$f''(x) = \frac{1}{x+1} - \frac{1}{x} + \frac{1}{(x+1)^2} = -\frac{1}{x(x+1)^2}$$

すると、 $x > 0$  で  $f''(x) < 0$  より、 $f'(x)$  は単調に減少し、

$$f'(x) > \lim_{x \rightarrow \infty} f'(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left\{ \log\left(1 + \frac{1}{x}\right) - \frac{1}{x+1} \right\} = 0$$

よって、 $x > 0$  で  $f(x)$  は単調に増加し、

$$f(x) < \lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left\{ \log\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x - 1 \right\} = \log e - 1 = 0$$

すなわち、 $\log\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x < 1$ 、 $\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x < e \cdots \cdots \textcircled{1}$

また、 $g(x) = \log\left(1 + \frac{1}{x}\right)^{x+\frac{1}{2}} - 1 = \left(x + \frac{1}{2}\right)\{\log(x+1) - \log x\} - 1$  とおくと、

$$g'(x) = \log(x+1) - \log x + \left(x + \frac{1}{2}\right)\left(\frac{1}{x+1} - \frac{1}{x}\right)$$

$$= \log(x+1) - \log x - \frac{2x+1}{2x(x+1)}$$

$$g''(x) = \frac{1}{x+1} - \frac{1}{x} + \frac{2x^2 + 2x + 1}{2x^2(x+1)^2} = \frac{1}{2x^2(x+1)^2}$$

すると、 $x > 0$  で  $g''(x) > 0$  より、 $g'(x)$  は単調に増加し、

$$g'(x) < \lim_{x \rightarrow \infty} g'(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left\{ \log\left(1 + \frac{1}{x}\right) - \frac{2 + \frac{1}{x}}{2(x+1)} \right\} = 0$$

よって、 $x > 0$  で  $g(x)$  は単調に減少し、

$$g(x) > \lim_{x \rightarrow \infty} g(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left\{ \log\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x \left(1 + \frac{1}{x}\right)^{\frac{1}{2}} - 1 \right\} = \log(e \cdot 1) - 1 = 0$$

すなわち、 $\log\left(1 + \frac{1}{x}\right)^{x+\frac{1}{2}} > 1$ 、 $\left(1 + \frac{1}{x}\right)^{x+\frac{1}{2}} > e \cdots \cdots \textcircled{2}$

したがって、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より、 $\left(1 + \frac{1}{x}\right)^x < e < \left(1 + \frac{1}{x}\right)^{x+\frac{1}{2}}$

### [解説]

微分の不等式への応用問題です。まず、証明すべき式の各辺に対数をとって、式と同値変形をした後に、差をとって微分するという定型的な処理をしています。

9

[千葉大]

(1)  $x > 0$ において  $f(x) = x - \log x$  とおくと,  $f'(x) = 1 - \frac{1}{x} = \frac{x-1}{x}$

すると,  $f(x)$ の増減は右表のようになり,

$$f(x) \geq 1 > 0$$

よって,  $x > 0$ において,  $\log x < x \cdots \cdots \textcircled{1}$

$x$	0	...	1	...
$f'(x)$	×	-	0	+
$f(x)$	×	↘	1	↗

(2)  $g(x) = \frac{1}{\log x}$  とおくと,  $g'(x) = -\frac{1}{x(\log x)^2}$

ここで,  $1 < a < c < b$ となる  $c$  に対して,  $\frac{g(b)-g(a)}{b-a} = g'(c)$  から,

$$g(b)-g(a) = (b-a)g'(c), \quad \frac{1}{\log b} - \frac{1}{\log a} = -\frac{b-a}{c(\log c)^2}$$

これより,  $\frac{1}{\log a} - \frac{1}{\log b} = \frac{b-a}{c(\log c)^2} \cdots \cdots \textcircled{2}$

また,  $0 < a(\log a)^2 < c(\log c)^2$  から,  $0 < \frac{1}{c(\log c)^2} < \frac{1}{a(\log a)^2} \cdots \cdots \textcircled{3}$

$\textcircled{2}\textcircled{3}$ より,  $\frac{1}{\log a} - \frac{1}{\log b} < \frac{b-a}{a(\log a)^2} \cdots \cdots \textcircled{4}$

(3)  $x \geq e$ において,  $F(x) = \int_e^x \frac{dt}{t \log(t+1)} - \log(\log x) - \frac{1}{2(\log x)^2} + \frac{1}{2}$  とおくと,

$$\begin{aligned} F'(x) &= \frac{1}{x \log(x+1)} - \frac{1}{x \log x} + \frac{1}{x(\log x)^3} \\ &= -\frac{1}{x} \left\{ -\frac{1}{\log(x+1)} + \frac{1}{\log x} - \frac{1}{(\log x)^3} \right\} \end{aligned}$$

$\textcircled{4}$ より  $\frac{1}{\log x} - \frac{1}{\log(x+1)} < \frac{1}{x(\log x)^2}$  となり,  $\textcircled{1}$ から  $\log x < x$  なので,

$$F'(x) > -\frac{1}{x} \left\{ \frac{1}{x(\log x)^2} - \frac{1}{(\log x)^3} \right\} = -\frac{\log x - x}{x^2(\log x)^3} > 0$$

すると,  $x \geq e$ において,  $F(x) \geq F(e) = 0 - \log 1 - \frac{1}{2} + \frac{1}{2} = 0$  となり,

$$\int_e^x \frac{dt}{t \log(t+1)} \geq \log(\log x) + \frac{1}{2(\log x)^2} - \frac{1}{2}$$

### [解説]

微分法の不等式への応用問題です。(1)(2)の誘導で(3)の見通しは良好です。なお、(2)では、不等式の形から平均値の定理の出番です。